

里山移動運用

JA1W0B 齊藤

アマチュア無線と出会った 1964 年ごろに町田市の地域クラブである、七国ビームクラブに入会しました。

まだ従事者免許も局免許も無い、SWLをしていた 15 才の少年の頃でした。

七国ビームクラブの名称は、町田市にある里山の七国山から 5 OMC の移動運用を楽しんでいたHAMが集まり、出来たクラブでした。

入会条件は、町田市在住で、50Mhz の受信または送信が出来るのが条件でした。

七国山（ななくにやま）は東京都町田市山崎町にある標高約 128.4 メートルの山である。

鎌倉時代頃に鎌倉と上州方面を結んだ鎌倉上道の古道跡が現在も残っており、近隣の本町田や小野路は古くから宿場として栄えたとされる。

かつて鎌倉から町田・府中・所沢・高崎を超え信州・上州方面を結んでいた鎌倉上道の古道が現在も残されている。

その当時に彫られたという井戸（鎌倉井戸）も残り、「七国山鎌倉街道の碑」を設置して記念している。この古道は浅い割堀になっており、昔ながらの未舗装の道が雑木林を南北方向に抜けている。（注、ウキペディアから引用）



数年前に昔を思い出して、七国山で移動運用と思い、鎌倉街道沿いにある、薬師池公園の駐車場に車を止めて、R I GとA N Tを背負って、七国山を目指して登って行きました。

薬師池公園内の池の脇を通り抜けて、坂道を登って尾根道に出た所までは、移動

運用の感じでした。ところが、尾根道を暫く歩き舗装道路になったあたりから、様子が変わってきました。周りに、多くの住宅が現れ始めたのです。

七国山を目指していたので、途中に「七国山鎌倉街道の碑」と「古井戸」はありましたが、住宅街の中でとても野外でANTを設営して移動運用が出来る様な雰囲気ではありませんでした。

考えてみれば、私の知っている七国山周辺が、40数年前と同じはずがありません、しかし、様変わりには驚きました。

山頂付近にあった茶店も、住宅に囲まれて廃業した様子で、古ぼけた椅子とテーブルが有りました。

FT-817にロッドアンテナを付けて、50Mhzを受信するとロケが良い為かそこそこ聞こえました。しかし、HB9CVアンテナを設営する状況では無いので、薬師池公園の駐車場へ戻り、車で住宅が少なくなった、道路に車を止めてモバイルホイップからCQ局の1~2局とコンタクトして早々に引き上げました。

無線を始めた、七国ビームクラブ時代は、多摩ニュータウンも未だ無く、野猿峠でフィールドデーコンテストの為に移動運用を行いました。

RIGは真空管式のTX-88Aや9R59でANTはクラブ員自作の5エレでポールは竹竿か足場材木だったので、材木屋のクラブ員のトラックに積みこんで行きました。

電源は野猿峠にあった茶店の電源を借用して、クラブ員が交代で24時間のコンテストに挑戦しました。

その頃から、移動運用をしながらアイボールをする事が楽しみでした。

そして、今でもロケの良い場所に移動して移動運用とアイボール楽しんでいます。

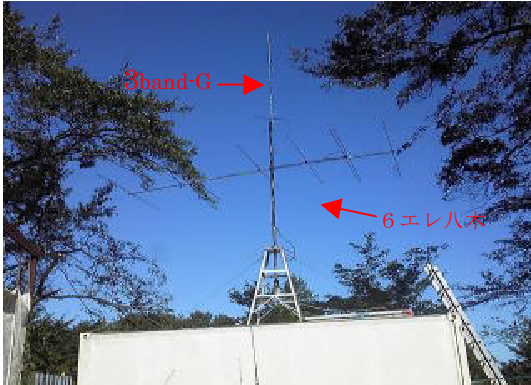
50.240SSB モバイルグループのメンバーになってからは、西多摩郡瑞穂町にある、六道山公園に行って移動運用とアイボールを楽しんでいます。

RIGは車に積んだFT-857Dで、ANTは小澤ポイントに常設してある6エレ八木を使用しています。

六道山は、昔、狭山丘陵山麓の村に通じる六つの道がここで「出会って」いた。六道山の名前の由来でもあり、現在、尾引山遊歩道、石畑新道遊歩道、台坂遊歩道、天王山遊歩道、大日山遊歩道、高嶺山遊歩道といったハイキングコースがこの出会いの辻に向かって里から続いている。

こういった遊歩道が昔の里を繋ぐ道の名残であるようです。

山頂の標高192m地点にある展望台は高さ13m。晴れたときには富士山、秩父連山、新宿のビルなども見渡せ、冬の晴れた朝にはスカイツリーも良く見えます。



また、狭山丘陵の狭山湖に近い所沢市には、俗称「葡萄峠」と呼ばれる小高い丘があります。



写真は2004年の移動運用の様子です。なんとなく七国山の山頂と似ています。左の丘の上にはテーブルがあって、所沢市内が一望出来るFBなロケーションです。所沢市や東大和市、東村山市のローカルHAMや27MHzの合法CBや400MHzの特小無線フリーライセンスの無線好きの人たちが集まっています。

先日も六道山の移動運用を終えて、「葡萄峠」に寄ってみると、ANTを付けた車が5~6台止まっていました。

車を降りてみると、何人かの御なじみさんがいて無線談義で楽しみました。

七国山から始まった、里山移動運用は40数年たった今でも楽しみの一つです。

終わり